

はじめに、このたびのチリ共和国訪問に際して、様々なご配慮を頂きましたことに心よりの御礼を申し上げます。今回の旅は、私に取りまして初めての単独での公式訪問であり、また初めての南半球の訪問になります。この間違いなく思い出に残る旅をする機会を頂きましたことを本当にうれしく思っております。

チリと日本は地理的には遠く距離を隔てておりますが、両国は1897年の外交関係樹立以来、長きにわたる友好の歴史を重ね、強い信頼で結ばれてまいりました。中でも、1960年、2010年のチリ地震、そして2011年の東日本大震災と言う、一見するとネガティブな災害の思い出を、ポジティブな人的交流に転じ、日本・チリ両国の友好関係が築かれていると言うのは本当に素晴らしいことだと思います。2年半前の震災の折には、大統領始め、多くのチリの国民の皆さまから心温まるご支援を頂きましたことに、改めて感謝の意を表したいと思えます。

今回のチリ訪問では、イースター島を訪れ、宮城県南三陸町へのモアイ像寄贈にご尽力頂いた方々に直接お礼を申し上げることができました。国同士だけではなく、イースター島と南三陸町という地域同士の交流が続き、両国のきずながますます強固なものになっていることは、とてもありがたいことだと思っております。

チリと日本はひとつの海を隔ててつながっております。チリの詩人パブロ・ネルーダのこの詞が私はとても好きです。「静かなる大地に寄せる青き波、白き泡立て、ふくよかな岸边に砕け散る」この詞に初めて触れたとき、私はまだ見たことのないチリの海の景色、そして日本の海岸線の景色がふと頭に浮かびました。その景色はなんだかとても似ていたような気がしています。このひとつの海を共有する二国の友好関係の発展と、チリ共和国のますますの繁栄を祈念しながら、杯を上げたいと思えます